

こころのメッセージ

夏休み

人生の中で一番短い夏休みが幕を閉じた。

この仕事をしていると、子どもの頃と変わらない季節感覚や、四季折々の行事を味わわせてもらう。

いくつになっても「夏休み」という響きは人をわくわくさせる。

しかし、今年の夏休みは何か物足りない。

それは、単なる時間的な短さではなく、行動制限によるものが大きかったのかもしれない。

コロナ禍においては、会いたい人に会えず、行きたいところにも行けない。

そんな私たちの心を見透かしてでもいたかのように、爆発的にヒットした「あつまれどうぶつの森」。

有名ゲームメーカーが手がけるこのソフトは、家にいながら、虫取りに行ったり、海に潜ったり、花火大会にも行けるらしい。さらには、ゲームの中で友達の家にも遊びにいけると言う。

本来、現実世界で叶えられたはずのあれやこれや…。

ヒットの裏には、それらが叶えられない現実がある。

私も世の中の例に漏れず、この夏は、学生時代の仲間とオンラインで集まった。

遠くにいながら、お互いの顔を見て、話ができる。

ひと昔前にはドラえもんの世界でしか考えられなかったようなことが、文明の発達により、可能になった。

それでも、何か物足りない。

オンラインでは「視覚」と「聴覚」を使うことはできても、何かに触れる「触覚」や、仲間と同じ

料理を囲む「嗅覚」は使えない。

先日、学校を出て数十メートルのところで、虫取り網を片手に公園へ向かう少年たちに遭遇した。

その時、ほっとした気持ちになったのは、画面上を生きる私たちが忘れかけた何かを、思い出させてくれたからかもしれない。